

科目名	研究関連特殊研究	科目コード	8112	単位数	2
担当者名	田辺 隆司	開講時期	1 後	開講年次	1年次

● 授業の到達目標及びテーマ

到達目標は、観光地における環境政策の意義を理解することです。また、自然環境や文化財の保護等の環境配慮活動が、持続可能な観光振興に果たす役割をまとめることです。そして、これらの事項をレポートとして提出することにあります。さらに、地域観光振興と環境政策の戦略的関係をテーマとします。

● 授業の概要

観光開発がどのような環境問題を誘発させるのかを検証します。また、観光地における戦後の開発行為(新全国総合開発計画やリゾート法等)を対象として、環境問題に対する国や地方自治体の政策・施策を追究し、その成否や原因・背景を明らかにします。さらに、近年のニューツーリズムの進展や世界自然遺産の登録への官民の活動を通して、環境に配慮した観光形態と地域振興について修得します。

● 授業計画

- 1週目 環境政策の社会的背景（R.カーソン「Silent Spring」、ローマ・クラブ「成長の限界」等）
- 2週目 日本の環境政策の変遷(公害対策基本法から環境基本法へ、産業型から都市生活型公害への対応)
- 3週目 観光開発と行政の対応1（観光振興との対立の構図：自然環境保全法制定、環境庁発足）
- 4週目 観光開発と行政の対応2（観光振興との融和の構図：都市景観条例、生物多様性保全再生事業）
- 5週目 日本における環境政策と時代背景に関わる概括
- 6週目 日本の観光政策の変遷(観光基本法から観光立国推進基本法へ、オルタナティブツーリズムの登場)
- 7週目 観光地造成と環境政策(景観論争：観光地における景観の機能。景観権の社会的認知度)
- 8週目 観光地におけるエコツーリズム（マスエコツーリズムによる自然破壊と環境保全策） + 定期試験、レポート
- 9週目 世界遺産登録によるオーバーツーリズムと自然環境・資源の保護、観光公害に対する地域住民の生活保障
- 10週目 地域における観光振興と環境保全の両立に関わる概括
- 11週目 行政による新たな地域観光振興の形態（ニューツーリズムの現状と課題）
- 12週目 観光振興と産業観光（観光資源としてのバイオマスタウン構想の意義を探る）
- 13週目 観光振興と文化観光（観光客が知的欲求を満たす「歴史や伝統」の本質を探る）
- 14週目 観光振興とヘルスツーリズム（健康保養地の環境保全、ドイツ「クアオルト」に学ぶ）
- 15週目 地域における観光振興と環境政策の戦略的関係に関わる概括 + 定期試験、レポート
- 16週目 全体の補足説明、定期試験とレポートのフィードバック(返却、講評)を行います。但し、やむを得ず、15週目までの授業内容を実施できなかった場合は、補講授業を行います。

● テキスト

- ・授業時に自作の教材(プリント)を配付します。また、参考文献等を収集しテキストとして使用します。

● 参考書・参考資料等

- ・田辺隆司『地方行政の環境政策手法と観光資源マネジメント』(HINAS) 2,800円
- ・細田衛士『環境と経済の文明史』(NTT出版) 1,800円

● 成績評価の方法・基準

- ・成績評価は70%以上授業に出席した履修者を対象とし、2回の定期試験とレポートの結果で判定します。
- ・成績評価に当たっては、受講態度も考慮して判定することがあります。

● 更新日付

2019/02/03 04:30